

2026年 AI産業の構造転換と松尾豊教授の予測に関する包括的検証レポート

Gemini 3 pro

1. 序論: 2026年、AIの「実装と激動」の年

2026年の到来とともに、人工知能(AI)技術とその産業構造は、かつてない規模と速度で変貌を遂げている。東京大学大学院工学系研究科の松尾豊教授が提示した「2026年のAI展望」は、生成AIの覇権争い、中国勢の台頭、半導体アーキテクチャの革新、そして物理世界への進出(フィジカルAI)といった多岐にわたる領域で、極めて高い精度の予測を含んでいたことが、現在の市場データと技術動向によって裏付けられている¹。

本レポートは、松尾教授の予測テーゼを基軸に据え、2025年後半から2026年初頭にかけての最新動向、技術論文、市場データを包括的に分析するものである。特に、OpenAIとGoogleの競争構造の変化、DeepSeekによる「コスト革命」がもたらした衝撃、日本発の半導体スタートアップ「Lenzo(Renzo)」や国家プロジェクト「Rapidus」の進捗、そして汎用人工知能(AGI)への到達度について、専門的な見地から詳細に検証を行う。

2026年は、AIが単なるデジタルの「魔法」から、社会インフラとしての「実利」を問われるフェーズへと移行し、同時にデジタル空間から物理空間へとその身体性を拡張する歴史的な転換点として位置づけられる。

2. 生成AI覇権の多極化: Googleの猛追とOpenAIの防衛

松尾教授は、2026年にかけてOpenAIとGoogleの覇権争いが激化し、Googleがその豊富な資金と人材、技術的源流(Transformer)を背景に巻き返しを図ると予測した¹。2026年1月現在の市場データは、この予測が現実のものとなり、さらにその競争が新たな次元へ突入していることを示している。

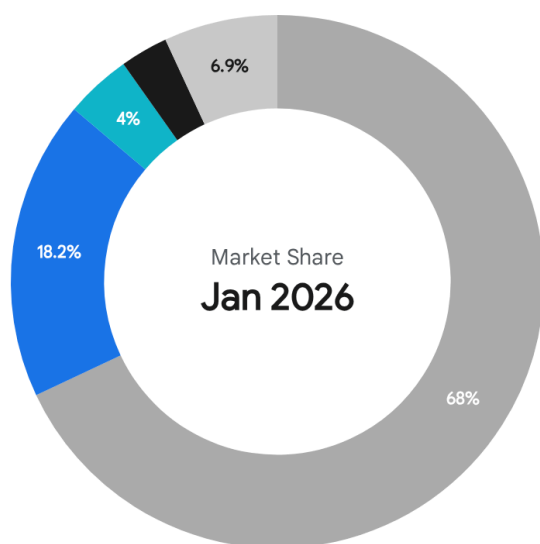
2.1 市場シェアの構造変化: Geminiの躍進

かつて生成AIチャットボット市場において圧倒的な独占状態にあったOpenAIの「ChatGPT」は、2026年に入りそのシェア構造に明確な変化が見られる。Similarweb等のデータ分析によると、ChatGPTの市場シェアは依然として過半を維持しているものの、68%程度まで低下傾向にあるとの報告がある²。対照的に、Googleの「Gemini」は、Android OSやGoogle Workspaceへの強力な統合戦略と、モデル性能の飛躍的向上により、シェアを約18.2%へと急伸させ、前年比で200%を超える成長率を記録している²。

この市場構造の変化は、単なるユーザーの好みの問題ではなく、AIモデルの利用形態が「単体アプリ」から「OS統合型アシスタント」へと移行していることを示唆している。Googleは、検索エンジンやモ

バイロOSという圧倒的な配布チャネル(ディストリビューション)を活かし、ユーザーが意識せずに Geminiを利用する環境を構築することに成功した³。これは、松尾教授が指摘した「Googleの本気」が、技術開発だけでなく製品展開のスピードにおいても具現化した結果と言える。

AIチャットボット市場シェアの激変（2026年1月）



主要プラットフォーム分析

● **ChatGPT** **68.0%**
OpenAI
デイリートラフィック: -22% (減少傾向)

● **Google Gemini** **18.2%**
Google
MAU: 6億5000万人 (急成長中)

● **DeepSeek** **4.0%**
DeepSeek AI
Rising Star

● Grok (2.9%) ● Others (6.9%)

ChatGPTは依然として過半数のシェアを維持しているものの、前年比でシェアを大きく落としている。一方、Google Geminiは前年比237%増という驚異的な成長を遂げ、DeepSeekなどの新興勢力も存在感を増している。

Data sources: [Vertu \(Jan 2026\)](#), [StartupTalky \(Jan 2026\)](#)

2.2 技術競争の深化: Gemini 3 vs GPT-5シリーズ

Googleが2025年末に投入した「Gemini 3」シリーズは、推論(Reasoning)能力において画期的な進歩を遂げた。特に「Deep Think」モードを搭載したGemini 3は、複雑な数学問題やコーディングタスク、マルチモーダル理解において、当時のOpenAIの最上位モデルと拮抗、あるいは一部で凌駕するベンチマークスコアを記録した⁴。

- 推論能力の向上: Gemini 3は、MMLU(大規模マルチタスク言語理解)やGPQA(大学院レベルの専門知識)といった主要ベンチマークで高いスコアを叩き出し、特に複雑な論理的推論を要するタスクでの信頼性を向上させた⁵。
- マルチモーダルネイティブ: テキスト、画像、音声、動画を同時に理解・生成する能力において、Gemini 3は他社を一歩リードしている。これは、YouTubeなどの膨大な動画データを学習資源として保有するGoogleならではの強みである⁷。

これに対し、OpenAIのサム・アルトマンCEOは、Googleの猛追を受けて社内に「コードレッド (Code Red)」を発令したと報じられている¹。これは、収益化や製品の多角化よりも、コアとなるモデル性能の向上に全リソースを集中させるという経営判断であり、AI開発競争が「機能追加」のフェーズから、再び「知能の深化」を競うフェーズへと回帰したことを意味する。OpenAIは、次世代モデル (GPT-5 系列や、より高度な推論モデル o3 など) の開発を加速させ、王座の死守を図っている⁸。

3. DeepSeek ショック: オープンソースによる価格破壊と技術的特異点

松尾教授の予測の中で、最も劇的かつ衝撃的な形で現実となったのが、中国勢によるオープンソース AI モデルの台頭である。2025 年 1 月、中国の AI スタートアップ「DeepSeek (深度求索)」が公開した推論モデル「DeepSeek-R1」は、世界の AI 産業における「スプートニク・ショック」とも呼べる事態を引き起こした⁹。

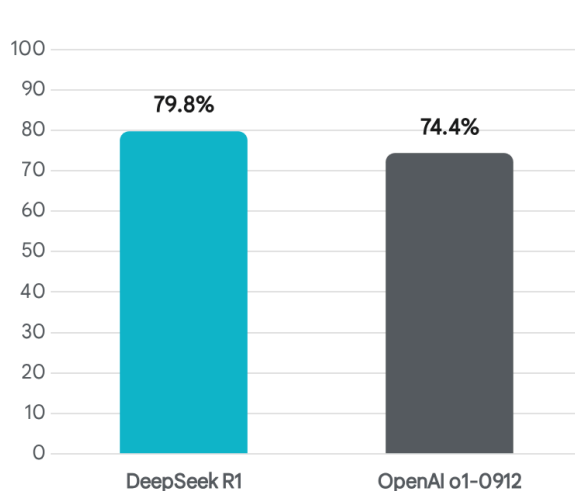
3.1 性能とコストの非対称性: シリコンバレーモデルの崩壊

DeepSeek-R1 の最大の特徴は、その圧倒的なコストパフォーマンスにある。同モデルは、OpenAI の推論モデル「o1」と同等の数学的推論能力やコーディング能力を持ちながら、開発コストが約 600 万ドル (当時のレートで約 9 億円) と、米国のトップモデル (数億ドル規模とされる) のわずか数分の一から十分の一程度で開発されたことが明らかになった¹¹。

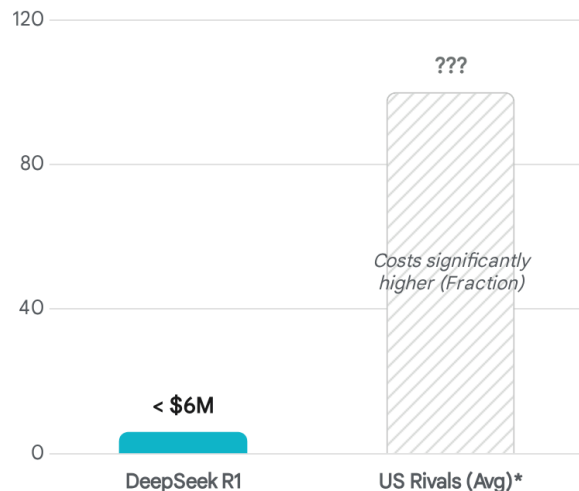
この事実は、これまでの AI 業界の常識であった「スケーリング則 (Scaling Laws)」、すなわち「モデルの性能は計算量とデータ量、そして投下資本に比例する」という前提に修正を迫るものであった。DeepSeek は、最新鋭の NVIDIA H100 GPU が入手困難な状況下で、規制対象外の古い世代のチップ (H800 など) を効率的に活用し、アルゴリズムの工夫 (Mixture-of-Experts: MoE アーキテクチャや、独自の強化学習手法 GRPO など) によってハードウェアの制約を突破したのである¹¹。

DeepSeek R1の衝撃：性能とコストの非対称性

推論性能 (AIME 2024 Pass@1)



推定トレーニングコスト (\$M)



DeepSeek R1は、OpenAI o1などのトップモデルと同等の数学・推論性能（AIME, MATH-500）を記録しながら、トレーニングコストは約600万ドル（\$6M）以下に抑えられている。これはアルゴリズムの効率化と古い世代のGPU（H800）活用による成果であり、米国の競合モデルのコストと比較して「ほんの一部（Fraction）」であると報告されている。

Data sources: [Times of India](#), [RBC Wealth Management](#), [Medium \(Mayada Khatib\)](#), [Arxiv](#)

3.2 株式市場へのインパクトとNVIDIAショック

DeepSeek R1のリリース直後の2025年1月下旬、この「低コスト革命」は株式市場に激震を走らせた。NVIDIAの株価は一時17%以上急落し、時価総額で約6,000億ドル（約90兆円）が一日で消失するという記録的な下げ幅を見せた¹¹。市場は、「もし低コストなチップと効率的なアルゴリズムで高性能AIが作れるなら、NVIDIAのハイエンドGPUへの爆発的な需要は持続しないのではないか？」という疑念を抱いたのである。これは、松尾教授が指摘した「技術進歩が緩やかになるとオープンソースが追いつき、クローズド戦略の優位性が揺らぐ」というシナリオが、ハードウェア市場にまで波及した例と言える。

3.3 技術的ブレークスルー：蒸留と強化学習

DeepSeek R1の成功の鍵は、「蒸留（Distillation）」と「強化学習（Reinforcement Learning）」の巧みな組み合わせにある。DeepSeekは、巨大なモデル（V3など）の推論能力を、より小さなモデルに効率的に転移させる蒸留技術を用いることで、推論コストを劇的に引き下げた¹⁷。さらに、SFT（教師あり微調整）をスキップし、純粋な強化学習によって推論能力を獲得させる「DeepSeek-R1-Zero」のアプローチは、高品質なラベル付きデータへの依存度を下げる可能性を示唆し、AI研究コミュニティに新たなパラダイムを提示した¹⁷。

4. 半導体産業のパラダイムシフトと日本の勝機

AIモデルの進化に伴い、それを支える計算基盤(コンピュータ)の在り方も問われている。松尾教授が予測した「NVIDIA包囲網」の形成と、そこにおける日本企業の役割は、2026年に入り、具体的な製品とエコシステムとして結実しつつある。

4.1 Lenzo (Renzo) とCGLA: 元PlayStation開発者による「脱・GPU」への挑戦

松尾教授が注目した日本の半導体スタートアップ「Lenzo(レンゾ、教授の資料ではRenzoと表記)」は、2026年において、AI推論チップの電力効率問題を解決するキープレイヤーとして世界的な注目を集めている。同社は、SonyのPlayStation 2/3において「Cellプロセッサ」等の開発を主導した伝説的なエンジニア、藤原賢信氏らが率いる企業である²¹。

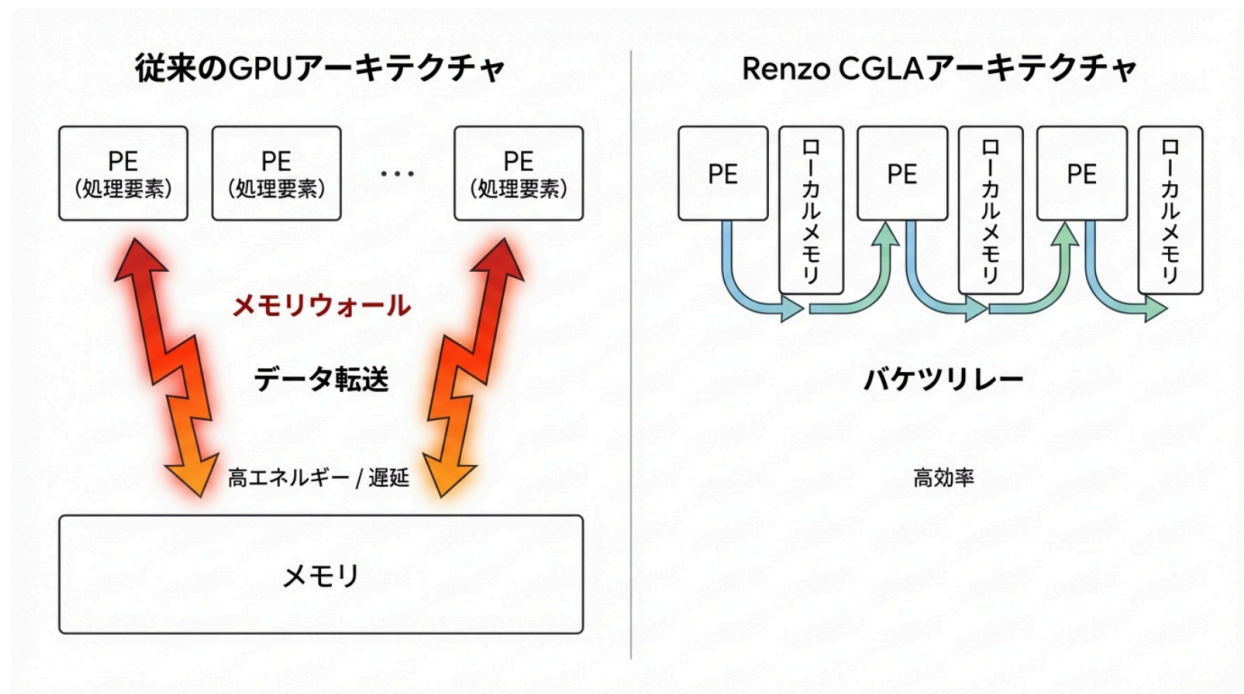
CGLAアーキテクチャの革新性

Lenzoが開発する「CGLA(Coarse-Grained Linear Array)」アーキテクチャは、従来のGPUが抱える構造的な弱点、「フォン・ノイマン・ボトルネック」の解消を目指している²¹。GPUは、演算器とメモリが物理的に離れており、大量のデータを頻繁に行き来させる必要があるため、そのデータ移動自体が多くの電力と時間を消費する。

対してCGLAは、演算ユニット(PE: Processing Element)と小規模なメモリを交互に近接配置し、データをバケツリレーのように隣接ユニットへ流しながら処理を行う。この「データフロー型」のアプローチにより、メモリアクセスの頻度と距離を最小化し、NVIDIA GPUと比較して電力効率を最大90%改善できるとされる¹。

2026年、生成AIの主戦場が「学習」から「推論(運用)」へとシフトする中で、データセンターの電力消費は深刻な課題となっている。LenzoのCGLAは、この課題に対する日本からの回答であり、Google TPUやGroqといった世界のAIチップスタートアップと伍して戦うポテンシャルを示している。

GPU vs CGLA : データフローの革新



左：従来のGPU構造。演算ユニットとメモリが離れており、頻繁なデータ移動がボトルネックと消費電力増大を招く。右：CGLA構造。演算ユニットとメモリが近接・交互に配置され、データが「バケツリレー」式に流れることで、移動コストを最小化し高い電力効率を実現する。

4.2 Rapidus: 2nm量産への道程と「ソブリンAI」の要

日本の半導体製造復権の象徴である「Rapidus(ラピダス)」は、2027年の量産開始に向け、2026年は極めて重要なマイルストーンを次々と達成している。

- **2nmプロセスの実証**：2025年7月、Rapidusは2nm世代のGAA(Gate-All-Around)トランジスタの試作に成功し、基本的な電気特性の確認を完了した²³。これは、日本が最先端ロジック半導体の製造技術において、TSMCやSamsungといった世界トップランナーの背中を捉えつつあることを意味する。
- **パイロットラインの稼働**：2026年4月には、北海道千歳市の工場「IIM-1」において、日本初となる2nmプロセスのパイロットラインが稼働を開始する予定である²⁵。ここでは、前工程(ウェハ処理)だけでなく、後工程(パッケージング)も含めた一貫ラインの構築が進められている。
- **国家戦略としての意義**：松尾教授はRapidusの意義を「安全保障(ソブリンAI)」と「バリューチェーン連携」の2点に見出していた¹。2026年度予算案において、経済産業省はAI・半導体分野に1兆円規模の資金を投じており²⁷、Rapidusはその中核として、他国に依存しないAI計算基盤の確保という国家安全保障上の役割を担っている。

4.3 Preferred Networks (PFN) の独自チップ戦略

もう一つの注目すべき動きとして、日本のユニコーン企業Preferred Networks(PFN)による独自AIチップ「MN-Core」シリーズの進化がある。PFNは、2026年に生成AI向けの新プロセッサ「MN-Core L1000」の開発を発表した²⁸。これはGPUと比較して最大10倍の計算速度と電力効率を目指すものであり、ハードウェアとソフトウェアを垂直統合で開発するPFNの強みが発揮されている。また、三菱商事やIIJとの合併会社設立により、このチップを用いたクラウドサービスの商用化も進められている

²⁹。

5. AGIの到来と「Third Intelligence」

「2026年前後にAGI(汎用人工知能)が出現する」という予測は、2026年現在、現実味を帯びた議論として展開されている。

5.1 AGI実現のタイムラインと定義の変容

OpenAIのサム・アルトマンCEOは、2025年中にAGI、あるいはそれに準ずる高度なAIエージェントが実現し、労働力の一部となると予言していた³⁰。実際、2025年後半から2026年にかけて、AIは単なる「チャットボット」を超え、自律的に計画を立案し、ツールを使いこなし、複雑なタスクを遂行する「エージェント」へと進化している。

Andrew Ng氏などが提唱するように、AGIの定義は「人間ができるあらゆる知的タスクをこなせる」という厳密なものから、「経済的に価値のあるタスクの多くを自律的に遂行できる」という実用的なものへとシフトしつつある³¹。この意味において、Gemini 3やGPT-5、DeepSeek-R1が示す高度な推論能力は、AGIへの階段を確実に上っている証左と言える。

5.2 株式会社Third Intelligence: 松尾教授の実践

松尾教授は、評論家としての立場にとどまらず、自らプレイヤーとしてAGI開発の最前線に立っている。2025年、松尾教授は元エウレカCEOの石橋準也氏らと共に、新会社「株式会社Third Intelligence」を設立した³²。

- **遍在型AGI(Ubiquitous AGI)**: 同社が掲げるビジョンは、巨大なデータセンターにある中央集権的なAIだけでなく、個々のユーザーやデバイスに寄り添い、ローカル環境でも学習・進化し続ける「遍在型AGI」の実現である。これは、LenzoのようなエッジAIチップとも親和性が高く、日本の強みであるハードウェアとの融合を見据えた戦略と言える。
- **資金調達とエコシステム**: 設立から間もなく80億円規模の大型資金調達を実施し、三菱UFJ銀行などの国内金融機関や大企業との連携を進めている³⁵。これは、松尾教授が提唱してきた「日本の豊富な資金と現場データをAI開発に還流させるエコシステム」の実践例であり、日本発のディープテック企業が世界で戦うためのモデルケースとなりつつある。

6. 物理AI(Physical AI)とロボット元年

2026年は、AIがスクリーンの中から飛び出し、物理世界で作業を行う「ロボット元年」として記憶される年になりそうだ。松尾教授の「家庭用ロボットが巨大市場になる」という予測は、1X社の「NEO」の出荷開始によって現実のものとなっている。

6.1 1X NEO: 家庭用ヒューマノイドの夜明け

ノルウェー発、OpenAIも出資するロボティクス企業1X Technologiesは、家庭用二足歩行ロボット「NEO」の出荷を2026年に開始した³⁷。

- 製品仕様と安全性: NEOは身長165cm、体重30kgと、人間と同等のサイズでありながら驚くほど軽量である。従来の硬いロボットとは異なり、生物的な筋肉の動きを模倣した駆動系と、柔らかい外装を持つことで、家庭内での人間との接触に対する安全性を確保している³⁹。
- ビジネスモデル: 本体価格は約2万ドル(約300万円)だが、月額499ドルのサブスクリプションモデルも提供されている⁴⁰。これは松尾教授が予測した「100万円以下、あるいは月額制での普及」に近い価格設定であり、富裕層やテック愛好家層からの初期導入を促進している。
- **Human-in-the-loop**戦略: NEOの最大の特徴は、完全自律ではなく、AIが解決できない困難なタスクに直面した際、遠隔操作(テレオペレーション)で人間が介入し、その操作データを学習データとして蓄積する点にある⁴²。これにより、現場での稼働と学習を同時に進めることが可能となり、AIの進化速度を加速させている。

6.2 産業界への展開と日本の立ち位置

家庭用に加え、1X社は投資会社EQTと提携し、2026年から2030年にかけて10,000台規模のNEOを産業現場に導入する計画を発表している⁴⁴。これは、ロボットがまずB2B領域で実用性を証明し、量産効果によるコストダウンを経て家庭(B2C)へ普及するという、PCやスマートフォンの歴史をなぞる動きである。

日本企業にとって、この動きは大きな機会であると同時に脅威でもある。松尾教授は「ハードウェア技術を持つ日本こそロボットで復権できる」と主張しているが、TeslaのOptimusやFigure AIといった欧米勢がソフトウェア(AI脳)とハードウェアの垂直統合で先行しているのが現状である。日本勢は、Tier IVのような自動運転技術⁴⁶や、精密モーター、センサーといったコンポーネント技術、あるいは介護現場など特定の「現場」に入り込んだソリューションで巻き返しを図る必要がある。

7. 日本の国家戦略:「GENIAC」とソブリンAIの成果

激動するグローバル競争の中で、日本政府および企業は「ソブリンAI(主権AI)」の確保に向けた動きを加速させている。

7.1 GENIACプロジェクトの具体的成果

経済産業省とNEDOが主導する「GENIAC(Generative AI Accelerator Challenge)」プロジェクトは、国内の計算資源(GPUクラウドなど)をAI開発企業に提供し、基盤モデルの開発を支援する枠組みで

ある⁴⁷。

- **Rakuten AI 3.0:** 楽天グループはGENIACの支援を受け、「Rakuten AI 3.0」を開発した。このモデルはMoEアーキテクチャを採用し、日本語処理能力においてGPT-4o等のグローバルモデルに匹敵する性能を示しつつ、運用コストを大幅に削減することに成功している⁴⁸。
- **特化型モデルの台頭:** 汎用モデルだけでなく、創薬(Alivexis)、音声認識(Kotoba Technologies)、法務といった特定ドメインに特化したモデル開発もGENIACの下で進められている⁴⁹。これは、松尾教授が提唱する「投資効率を重視し、ニッチでも実用性の高いモデルを作る」という戦略と合致している。

7.2 「活用からのイノベーション」の実装

KDDIグループ傘下となった「ELYZA」は、企業向けAIプラットフォーム「ELYZA Works」を展開し、日本企業の現場業務へのAI実装を推進している⁵¹。また、松尾研究のスタートアップは、日本国内で培った技術とユースケースを武器に、東南アジアやアフリカなどグローバル・サウス市場への展開を模索し始めている⁵²。これは、少子高齢化という課題先進国である日本で磨かれたAIソリューションが、同様の課題に直面しつつある世界各国で受容される可能性を示している。

8. 結論: 予測の的確性と今後の展望

2026年初頭の状況を総括すると、松尾豊教授による予測は、**「生成AI競争の激化」「中国OSSの脅威」「半導体構造の変化」「ロボットの実用化」**という主要な点において、驚くべき精度で的中していたと言える。

- **競争環境:** Googleの巻き返しとDeepSeekの台頭により、OpenAI一強時代は終わりを告げ、多極的な競争時代へと突入した。
- **技術動向:** 「推論」能力の強化と「エージェント」化がトレンドとなり、AGIへの道筋が具体化しつつある。
- **ハードウェア:** LenzorのCGLAやDeepSeekの低コスト学習に見られるように、「資源の制約」が逆に技術革新(イノベーション)を加速させるという現象が起きている。
- **日本の戦略:** RapidusやThird Intelligence、GENIACプロジェクトなど、官民一体となった取り組みが具体的な成果を生み出し始めており、日本は「AI敗戦」の淵から踏みとどまり、反転攻勢の足がかりを築きつつある。

2026年は、AIがデジタルの箱庭から飛び出し、物理世界と社会システム全体を再定義し始める「実装の年」である。日本がこの波に乗り、ハードウェアの強みと現場の知恵、そして独自のAI戦略を融合させることで、次なる10年の国際競争力を確保できるかどうか、今まさに問われている。

引用文献

1. 2026年AIの展望: 松尾豊教授の予測と分析 (1).pdf
2. AI Chatbot Market Share 2026: Similarweb Analysis | ChatGPT vs ..., 1月 9, 2026にアクセス、

- <https://vertu.com/lifestyle/ai-chatbot-market-share-2026-chatgpt-drops-to-68-a-s-google-gemini-surges-to-18-2/>
3. ChatGPT Daily Visits Fall 22%, Gemini Holds Firm - StartupTalky, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://startuptalky.com/news/chatgpt-sharp-22-dip-in-daily-traffic-google-gemini/>
 4. Wonder why OpenAI CEO Sam Altman declared 'Code Red' after Google Gemini 3 launch? Here is the reason, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://www.financialexpress.com/life/technology-wonder-why-openai-ceo-sam-altman-declared-code-red-after-google-gemini-3-launch-here-is-the-reason-4100962/>
 5. Google's Gemini 3 is Here (And It Just Shook the Competition), 1月 9, 2026にアクセス、
<https://chatlyai.app/blog/gemini-3-benchmarks-and-capabilities>
 6. Google is 'Crushing' ..., numbers that tell you why OpenAI CEO Sam Altman was 'forced' to send Code Red to employees, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://timesofindia.indiatimes.com/technology/tech-news/google-is-crushing-numbers-that-tell-you-why-openai-ceo-sam-altman-was-forced-to-send-code-red-to-employees/articleshow/126395086.cms>
 7. Google's Gemini 3: A Deep Dive Into the Next Era of Agentic AI, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://skywork.ai/skypage/en/google-gemini-agentic-ai/1990964118582943744>
 8. An Analysis of DeepSeek's R1-Zero and R1 - ARC Prize, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://arcprize.org/blog/r1-zero-r1-results-analysis>
 9. DeepSeek R1 | Ave Maria School of Law, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://www.avemarialaw.edu/deepseekr1/>
 10. A 'Sputnik' moment in the global AI race - The Japan Times, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://www.japantimes.co.jp/commentary/2025/07/03/japan/sputnik-moment-in-global-ai-race/>
 11. Nvidia CEO Jensen Huang is impressed by the Chinese company that made Nvidia 'poorer' by \$580 billion in one single day, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://timesofindia.indiatimes.com/technology/tech-news/nvidia-ceo-jensen-huang-is-impressed-by-the-chinese-company-that-made-nvidia-poorer-by-580-billion-in-one-single-day/articleshow/126372898.cms>
 12. AI's big leaps in 2025 - RBC Wealth Management, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://www.rbcwealthmanagement.com/en-eu/insights/ais-big-leaps-in-2025>
 13. DeepSeek R1 - Chinese Startup That Shook AI Giants - IT Butler, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://itbutler.sa/blog/deepseek-r1-chinese-startup-that-shook-ai-giants-and-the-global-market/>
 14. DeepSeek (chatbot) - Wikipedia, 1月 9, 2026にアクセス、
[https://en.wikipedia.org/wiki/DeepSeek_\(chatbot\)](https://en.wikipedia.org/wiki/DeepSeek_(chatbot))
 15. Impact of the DeepSeek-R1 Model Launch on the Value of Chinese ..., 1月 9, 2026にアクセス、
https://www.researchgate.net/publication/393367966_Impact_of_the_DeepSeek-

[R1_Model_Launch_on_the_Value_of_Chinese_AI_Concept_Companies](#)

16. Nvidia CEO Attributes Global AI Industry Shift to DeepSeek R1 Open ..., 1月 9, 2026にアクセス、
<https://doity.com.br/lnanolpcb2018?y-news-24648382-2026-01-08-nvidia-ceo-at-tributes-global-ai-industry-shift-to-deepseek-r1-open-source-model>
17. DeepSeek R1 — a short summary - Medium, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://medium.com/@mayadakhathib/deepseek-r1-a-short-summary-73b6b8ced9cf>
18. DeepSeek R1 Revolutionizes AI - Open Model Lowers Costs - Kafkai, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://kafkai.com/en/blog/deepseek-r1-transform-ai/>
19. The Complete Guide to DeepSeek Models: V3, R1, V3.1, V3.2 and ..., 1月 9, 2026にアクセス、
<https://www.bentoml.com/blog/the-complete-guide-to-deepseek-models-from-v3-to-r1-and-beyond>
20. DeepSeek-R1: Incentivizing Reasoning Capability in LLMs ... - arXiv, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://arxiv.org/pdf/2501.12948>
21. JOB HAKU – Japanese Job Expo | Warsaw | ChallengeRocket.com, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://challengerocket.com/japanese-job-expo>
22. Implementation and Evaluation of Stable Diffusion on a General ..., 1月 9, 2026にアクセス、
<https://arxiv.org/html/2511.02530v1>
23. Rapidus Achieves Significant Milestone at its State-of-the-Art ..., 1月 9, 2026にアクセス、
https://www.rapidus.inc/news_topics/news-info/rapidus-achieves-significant-milestone-at-its-state-of-the-art-foundry-with-prototyping-of-leading-edge-2nm-gaa-transistors-2/
24. NEWS - Rapidus Corporation, 1月 9, 2026にアクセス、
https://www.rapidus.inc/en/news_topics/information/
25. Japan's Silicon Renaissance: Rapidus Hits 2nm GAA Milestone as Government Injects ¥1.23 Trillion into AI Future, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://markets.financialcontent.com/stocks/article/tokenring-2026-1-7-japans-silicon-renaissance-rapidus-hits-2nm-gaa-milestone-as-government-injects-123-trillion-into-ai-future>
26. Rapidus Confirms Launching 2nm Pilot Line in April, Mass ..., 1月 9, 2026にアクセス、
<https://www.techpowerup.com/334907/rapidus-confirms-launching-2nm-pilot-line-in-april-mass-production-set-for-2027>
27. METI budget hike Japan lifts chip and AI funding for FY 2026, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://hardwarebee.com/news/meti-budget-hike-japan-lifts-chip-and-ai-funding-for-fy-2026/>
28. PFN Begins Development of Generative AI Processor MN-Core L1000, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://www.preferred.jp/en/news/pr20241115>
29. PFN, Mitsubishi Corporation and IJ to Establish Joint Venture ..., 1月 9, 2026にアクセス、
<https://www.mitsubishicorp.com/jp/en/news/release/2024/20241223002.html>

30. Sam Altman predicts artificial superintelligence (AGI) will happen ..., 1月 9, 2026にアクセス、
<https://www.techradar.com/computing/artificial-intelligence/sam-altman-predicts-artificial-superintelligence-agi-will-happen-this-year>
31. Coursera cofounder Andrew Ng warns AGI hype could mislead students, CEOs, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://m.economictimes.com/tech/artificial-intelligence/coursera-cofounder-andrew-ng-warns-agi-hype-could-mislead-students-ceos/articleshow/126398410.cms>
32. Third Intelligence Company Deck, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://speakerdeck.com/thirdintelligence/third-intelligence-company-deck>
33. Top | Who we are - Third Intelligence, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://third-intelligence.com/en>
34. 松尾豊らと共にAI研究開発企業「株式会社Third Intelligence」を設立, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://matsuo-institute.com/2025/06/760/>
35. Japan FinTech Observer #138 - Medium, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://medium.com/tokyo-fintech/japan-fintech-observer-138-83a0fa3d3599>
36. 新たな知能の創出とAGIの実現を目指すAI研究開発を行うThird ..., 1月 9, 2026にアクセス、
<https://lp.startup-db.com/media/articles/20251110-1114>
37. NEO humanoid designed for household use, available for preorder, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://www.therobotreport.com/1x-announces-pre-order-launch-neo-humanoid-robot/>
38. NEO Home Robot | Order Today - 1X.tech, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://www.1x.tech/discover/neo-home-robot>
39. VIDEO: 1X announces NEO consumer-ready humanoid robot pre ..., 1月 9, 2026にアクセス、
https://www.robotics247.com/article/video_1x_announces_neo_consumer_ready_humanoid_robot_pre_order_details_with_200_deposit/end_user
40. Order NEO - 1X.tech, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://www.1x.tech/order>
41. Neo Humanoid Robot Launch Draws Expert Doubts, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://www.chosun.com/english/industry-en/2025/11/04/CBWUVNZQGVBHLAXLRJQJWAYYSE/>
42. 1X's NEO Launch Splits Tech World, Sparking Heated Debate on ..., 1月 9, 2026にアクセス、
<https://www.humanoidsdaily.com/news/1x-neo-launch-sparks-debate-on-autonomy-and-teleoperation>
43. Make or Break moment for 1X Neo - Medium, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://medium.com/@nordgardco/make-or-break-moment-for-1x-neo-31a8aef06cf5>
44. Humanoid Robot Surprise: 1X Shifts Gears, Supplies ... - Whalesbook, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://www.whalesbook.com/news/English/industrial-goodsservices/Kotak-Sees-Thermax-Ltd-Soaring-28percent-Massive-Upgrade-Sparks-5percent-Rally-Is-Th-is-Indias-Next-Big-Growth-Story/693b43fb17f2fb9e1d30bfe3>

45. 1X Partners with EQT to Deploy Up to 10000 Humanoid Robots ..., 1月 9, 2026にアクセス、
<https://www.humanoidsdaily.com/news/1x-partners-with-eqt-to-deploy-up-to-10-000-humanoid-robots-across-global-industry>
46. TIER IV to showcase E2E AI for Level 4+ autonomy at CES 2026, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://www.prnewswire.com/news-releases/tier-iv-to-showcase-e2e-ai-for-level-4-autonomy-at-ces-2026-302652020.html>
47. GENIAC / Ministry of Economy, Trade and Industry (METI), 1月 9, 2026にアクセス、
https://www.meti.go.jp/english/policy/mono_info_service/geniac/index.html
48. Rakuten Unveils Japan's Largest High-Performance AI Model ..., 1月 9, 2026にアクセス、
https://global.rakuten.com/corp/news/press/2025/1218_01.html
49. Notice of Selection for the Ministry of Economy, Trade and Industry's ..., 1月 9, 2026にアクセス、
https://alivexis.com/press_release/notice-of-selection-for-the-ministry-of-economy-trade-and-industrys-domestic-generative-ai-development-strengthening-project-geniac/
50. AI Interpreting Startup Kotoba Raises USD 11.8M in Seed Round 2, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://slator.com/ai-interpreting-startup-kotoba-second-seed-round/>
51. ELYZA introduces ELYZA Works for AI app development, 1月 9, 2026にアクセス、
<https://itbusinesstoday.com/tech/ai/elyza-introduces-elyza-works-for-ai-app-development/>
52. Tokyo Univ. Matsuo Lab's visit to ZIM - JICA Volunteer Contributing ..., 1月 9, 2026にアクセス、
https://www.jica.go.jp/english/overseas/zimbabwe/information/topics/2025/1576672_59732.html